

## 科学技術イノベーション総合戦略2016における 重きを置くべき施策

- 政府全体の科学技術関係予算の編成において、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、限られた資源の重要な分野や効果の高い施策への重点的配分、それによる資源の有効活用及び政策のP D C Aサイクルを確実に実行するため、科学技術イノベーション総合戦略2016の推進に向けて、概算要求に先立ち、関係する全ての省庁を集めて有識者等によるヒアリングを実施して、「重きを置くべき施策」を特定。
- 内閣府は、総合戦略が政府の予算に実効的に反映されるよう、財政当局等との連携を図る。
- 取りまとめ過程で得た検討課題などの知見については、「重きを置くべき施策」の実施に向けて留意するとともに、次年度の科学技術イノベーション総合戦略につなげる。

### 科学技術イノベーション総合戦略

- 科学技術基本計画の中長期の方針の下、各年度に重きを置くべき項目を明確化
- 第2次安倍政権発足以来、成長戦略の一環として毎年策定し、閣議決定
- 「科学技術イノベーション総合戦略2016」は、本年5月に閣議決定

# 特定施策数及び概算要求額

## 未来の産業創造と社会変革

非連続なイノベーションを積極的に生み出す取組を強化、「Society 5.0」（超スマート社会）を世界に先駆けて実現。

- ・未来に果敢に挑戦する研究開発と人材の強化
  - ・新たな経済社会としての「Society 5.0」（超スマート社会）を実現するプラットフォーム
  - ・「Society 5.0」（超スマート社会）における基盤技術の強化
- 特定施策数：40施策 概算要求額：868億円

## 基盤的な力の強化

早急に対処しなければならない若手や女性の活躍促進、大学改革を強化し、先行きの見通しが立ちにくい時代に柔軟かつ的確に対応していく。

- ・人材力の強化（若手研究者や女性の活躍促進、人材流動化の促進等）
  - ・資金改革の強化（国立大学改革と研究資金改革の一体的推進等）
- 特定施策数：25施策 概算要求額：5071億円

## 経済・社会的課題への対応

科学技術イノベーションを総動員し戦略的に課題の解決に取り組む。被災地における将来的な新技術や新産業の創出を引き続き推進。

- (1) 持続的な成長と地域社会の自律的な発展
  - I エネルギー、資源、食料の安定的な確保
  - II 超高齢化・人口減少社会等に対応する持続可能な社会の実現
  - III ものづくり・コトづくりの競争力向上
- (2) 国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現
  - I 効率的かつ効果的なインフラ維持管理・更新・マネジメントの実現
  - II 自然災害に対する強靱な社会の実現
  - III 国家安全保障上の諸課題への対応\*
  - IV おもてなしシステム

### (3) 地球規模課題への対応と世界の発展への貢献 地球環境情報プラットフォームの構築

※：総合戦略2016より新たに記載

特定施策数：177施策 概算要求額：4107億円

## 人材、知、資金の好循環システムの構築

産学官の本格的連携やベンチャー企業の創出強化を通じ、世界を先導する我が国発のイノベーションが次々と生み出せるシステムを構築していく。

- ・オープンイノベーションを推進する仕組みの強化
  - ・新規事業に挑戦する中小・ベンチャー企業の創出強化等
- 特定施策数：23施策 概算要求額：274億円

## 科学技術イノベーションの推進機能の強化

エビデンスに基づく実効性ある科学技術イノベーション政策の推進と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機会を活用した科学技術イノベーションの推進

特定施策数：4施策 概算要求額：9億円

**特定施策数：232施策**

**概算要求額：9538億円**

( ~ の複数に計上されている施策は再掲分を除いて計上)

# 「Society 5.0」を実現するプラットフォームの構築

ICTを徹底的に活用して経済成長と社会課題の解決の両立を目指す「Society 5.0」を実現するためのプラットフォームの構築を推進する。

## Society 5.0プラットフォーム

○ 総合戦略2015で定めた11システムのうち「高度道路交通システム」「エネルギーバリューチェーンの最適化」「新たなものづくりシステム」をコアシステムとして開発し、他システムと連携協調を図り、新たな価値を創出

○ 基盤技術（AI、ネットワーク技術、サイバーセキュリティ等）の強化



## 地球環境情報プラットフォームに関する特定施策の例

地球環境の観測・予測データ及び経済・社会問題に関連した各種データを統合した情報基盤（地球環境情報プラットフォーム）を構築し、この情報基盤の活用により気候変動に起因する各種経済・社会的課題（海面上昇、降水量の変化に伴う耕作適地の変化、水害防止等）の解決に貢献する。

省庁名	施策名	H29年度概算要求額 (概算：百万円)
環境省	衛星による地球環境観測の強化	4,549
環境省	気候変動適応情報プラットフォームを活用した地域における適応の取組推進と科学的知見の充実	19,823の内数 + 1,169
文科省	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発	1,810
文科省	地球環境情報プラットフォームの構築及び研究成果の社会実装の推進	3,021
文科省	北極域研究の戦略的推進	880及び運営交付金 35,832の内数
国交省	気候変動の中長期予測の高精度化	34
総務省	衛星搭載センサの性能向上と地球観測データ実利用化に資するデータ提供	NICT運営交付金 29,597の内数

# (参考) 重きを置くべき施策の取りまとめプロセス

平成28年5月

科学技術イノベーション総合戦略2016 (5月24日閣議決定)

【計画】

平成28年6月

科学技術イノベーション予算戦略会議 (6月14日開催)

7月~8月

各省施策のヒアリング及び調整

【実行】

- ・ 課題毎に各省の全体的な取組方針を共有・議論
- ・ 関係府省施策の連携・協調についてアドバイス
- ・ 重複排除・事業間の調整・役割分担の明確化

## Society 5.0実現に向けた検討項目

- ・ 個々のシステムの高度化及びシステム間の連携協調
- ・ システム内の優れた個別技術の高度化
- ・ 基盤技術の強化
- ・ SIPに関連する施策については相乗効果

## 分野横断的な検討項目

- 「重きを置くべき取組」の中で特に検討を深めるべき4つの項目の観点から検討
- ・ 「若手をはじめとする人材力の強化」
  - ・ 「大学改革と資金改革の一体的推進」
  - ・ 「オープンイノベーションの推進による人材、知、資金の好循環システムの構築」
  - ・ 「科学技術イノベーションの推進機能の強化」

概算要求に先立ち、関係する各省を集め有識者議員等によるヒアリングを実施。



各府省概算要求

9月

平成29年度科学技術関係予算、制度等における重きを置くべき施策の特定

- ① 未来の産業創造と社会変革
- ② 経済・社会的課題への対応
- ③ 基盤的な力の強化
- ④ 人材、知、資金の好循環システムの構築
- ⑤ 科学技術イノベーションの推進機能の強化

## 2. 経済・社会的課題への対応

第22回 総合科学技術・イノベーション会議  
(2016年9月15日) 資料より

### (3) 地球規模課題への対応と世界の発展への貢献 地球環境情報プラットフォームの構築

上記に係る「重きを置くべき施策」は下表のとおり。

省庁名	施策番号	施策名	事業期間	H29年度概算要求額 (概算：百万円)	予算 新規/継続
環境省	環・環01	衛星による地球環境観測の強化	H23～	4,549	継続
環境省	環・環02	気候変動適応情報プラットフォームを活用した地域における適応の取組推進と科学的知見の充実	H28～	19,823の内数 + 1,169	新規
文科省	環・文01	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発	H21～H35	1,810	継続
文科省	環・文02	地球環境情報プラットフォームの構築及び研究成果の社会実装の推進	H28～H33	3,021	一部新規
文科省	環・文03	北極域研究の戦略的推進	H27～H31	880及び運営交付金 35,832の内数	継続
国交省	環・国01	気候変動の中長期予測の高精度化	H28～H30	34	継続
総務省	環・総01	衛星搭載センサの性能向上と地球観測データ実利用化に資するデータ提供	H28～H30	NICT運営交付金29,597 の内数	継続

上記施策に関連する議論において、有識者から以下の指摘等があった。  
これらの指摘事項に関しては、重きを置くべき施策の実施に向けて留意するとともに次年度の総合戦略の検討につなげていくものとする。

知見を十分に把握し、社会実装に通じる気候変動適応施策を充実させるべき。

各省施策の連携を強化して地球環境情報プラットフォームに提供されるデータ、アプリケーションを充実させて、ユーザーの意見を取り込みプラットフォームの使い勝手の向上を図るべき。

農業、インフラ管理、防災などの地球環境情報の活用が期待される多くの分野との連携を推進するため、地球環境情報プラットフォームのさらなる拡充を図るべき。

## (3) 地球規模課題への対応と世界の発展への貢献 地球環境情報プラットフォームの構築

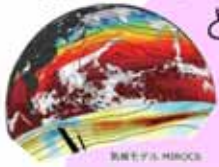
### 地球環境情報プラットフォームの構築

温室効果ガス濃度の増加に伴う地球温暖化等の気候変動は、風水害の増加や水資源、食料生産等への悪影響等が危惧されている。**我が国および世界において、気候変動の緩和と適応に取り組むことが求められる。**

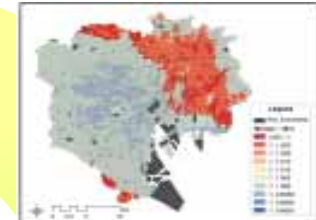
**地球環境の観測・予測データおよび経済・社会データを統合した地球環境情報プラットフォームを構築し、気候変動に起因する課題の解決ならびに世界の持続的な発展へ貢献する**

### システム概要

**【データ加工】**地球環境の予測モデルとシミュレーション技術、温室効果ガス排出量推定技術の高度化  
【環01・環02・文02・国01】



**【データ蓄積・公開】**地球環境の観測・予測データを統合した情報基盤の構築と気候変動適応情報の収集・発信  
【環01・環02・文02・総01】



**【データ収集】**衛星搭載センサーの性能向上、地球観測衛星の開発・運用、海洋・極域の観測技術の高度化【環01・文01・文03・総01】



## 地球環境情報 プラットフォーム

**【データ活用】**気候変動の緩和と気候変動の影響への適応に貢献する技術の開発【環02・文02】

### 期待される成果一例



適切な水資源管理



自然エネルギー発電等の出力変動予測

# 平成29年度 重きを置くべき施策：地球環境情報プラットフォームの構築

## 取組の内容

